

令和4年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
園芸部門

「万願寺甘とう」の伝統を100年先へつなぐ

○氏名又は名称 JA 京都にのくに万願寺甘とう部会協議会（代表 添田 潤）

○所在地 京都府綾部市

○出品財 経営（万願寺甘とう）

○受賞理由

・地域の概要

綾部市は、京都府の北部に位置している。京の伝統野菜「万願寺甘とう」は、綾部市の他、舞鶴市、福知山市で栽培されており、3市が所在する中丹地域は京都府の中央部より北寄りに位置し、日本海側気候に属している。地域内の平地は、地下水位が高く粘質土壌が多いため、土壌改良を行った上で作物が栽培されている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

平成22年に万願寺甘とう部会協議会を設立。「最上の万願寺とうがらし“万願寺甘とう”」をキャッチフレーズに、地理的表示（GI）登録や共選共販活動、徹底した種子管理によるブランド力の強化、ハウス栽培の積極的な導入や新規生産者の育成による生産力の強化を推進。これらの取組により、販売額は年々増加し、令和2年度には初めて4億円を突破。

・受賞者の特色

（1）ブランド及び販売力の強化

GI登録を行ったほか、協議会で定めた選果基準と出荷規格に基づく厳格な検査などによりブランド力の強化を図ってきた。さらに、品種の他産地への流出を防ぐとともに種子の品質を保つため、協議会で種子全量を確保している。また、包装機の導入により袋詰め能力を強化し、量販店等との長期契約販売を増やすことで市況に影響されにくい価格形成を目指しているほか、部会員が経費の一部を負担し販促活動を強化している。

（2）産地としての生産力の強化

ハウス栽培の導入を積極的に進めるとともに、優良生産者の栽培技術を協議会全体で共有している。これにより単収は年々向上している。さらに、厳しい環境への対応と省力化に向けて、ICT等も積極的に導入している。また、新規生産者が定着し、生産規模を拡大できるように技術講習などの育成活動に取り組んでいる。

・普及性と今後の発展方向

「万願寺甘とう」は、「収益を上げられる」品目として認識されており、Uターン等の新規就農者の受け皿となっている。JAや京都府と一体となって新規生産者の生産性を向上させ、販売力を強化していくことで、さらなる出荷拡大を狙えると考えており、100年続く産地を目指している。